

第2期京都市市民参加推進計画 改定版の全体像

目指す未来像

『参加と協働により，豊かで活力のある地域社会の実現』

【5年後の地域社会の姿】 市民，地域の住民組織，NPO，企業・事業者，大学，寺社，行政等のあらゆる主体が，まちづくりにおけるそれぞれの役割を積極的に果たすとともに，これまでの役割の範囲を越えて連携し，対等の立場で知恵と力を出し合う協働のまちづくりや，地域コミュニティの活性化が進み，その成果を市民が実感している。

3つの基本方針で推進

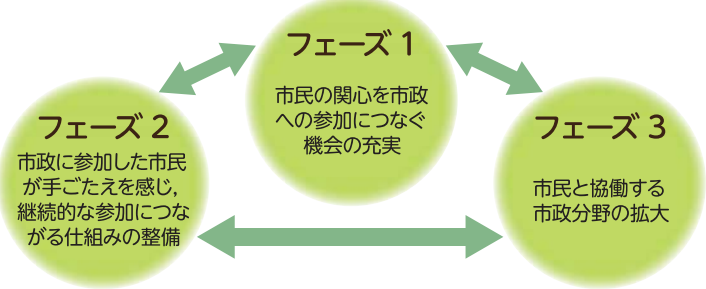
市会と連携

基本方針

2

市民の市政への参加の推進

市民の市政への参加を推進するフェーズ(局面)



フェーズ1

- 施策4 市政やまちづくりを「自分ごと」，「みんなごと」と感じられる情報提供の工夫
- 施策5 市政への参加の仕組みのユニバーサルデザイン化の推進
- 施策6 子ども，大学生など若い世代の市政への参加の推進

フェーズ2

- 施策7 市政運営のあらゆる過程における参加の機会の提供
- 施策8 市民の手ごたえにつながる市政への参加の結果の公表

フェーズ3

- 施策9 あらゆる市政分野での市民と京都市の知恵と力を最大限いかす協働の推進
- 施策10 市民とともに政策課題に取り組む協働型事業の充実

基本方針

1

市民との未来像・課題の共有

価値観や地域課題が多様化する中で，豊かで活力ある地域社会を実現するためには，京都の未来像や課題を，あらゆる主体が対話をしながら，しっかりと共有し，市政やまちづくりを「ひとごと」ではなく，「自分ごと」，「みんなごと」と捉え，知恵と力を出し合うことが，ますます必要となっている。

**施策2
市民と市職員の対話の推進**

市民と市職員がお互いの問題意識や，その意識を持つに至った背景となる情報・想いなども含めて伝え合い，どのような未来を目指すかの目標もはっきり共通のものとし，さらには，共に問題の発見・分析や課題の設定に取り組むため，対話の機会を充実

**施策3
市民と多様な主体が対話する機会の充実**

多様な主体が対話により伝え合い，相互理解を深め，未来像・課題を共有する機会の充実を図るとともに，市民が主体的に行う対話の機会づくりを支援

**施策1
市民との情報共有の推進**

あらゆる主体と京都市が未来像・課題を共有し，市政やまちづくりに共に取り組むために必要な情報を，全て積極的かつ迅速に公開・提供
また，分かりやすい情報提供を行うとともに，京都市が持つ様々な情報を誰もが活用できる形で提供するオープンデータを推進

計画の基盤となる方針

基本方針

3

市民のまちづくり活動の活性化

市民のまちづくり活動を活性化させるフェーズ(局面)



フェーズ1

- 施策11 市民のまちづくり活動が多く市民にとって「自分ごと」，「みんなごと」となる情報発信の支援
- 施策12 市民が気軽に参加できる「まちづくり活動への入口」となる機会づくりの推進
- 施策13 市民がまちづくり活動に積極的に取り組める企業啓発や社会環境づくりの推進

フェーズ2

- 施策14 市民のまちづくり活動に必要な資源をコーディネートする機能の充実
- 施策15 地域力の一層の向上を図る地域コミュニティ活性化の取組の充実
- 施策16 市民のまちづくり活動を社会全体で支える機運の醸成と仕組みの充実
- 施策17 ソーシャルイノベーションの活性化

フェーズ3

- 施策18 フューチャーセンター機能など，多様な主体の協働を促進する機会づくりや仕組みの充実
- 施策19 多様な主体の協働のまちづくり活動を支える「伴走型支援」の実施

計画を着実に進めるための推進体制

取組1：各局区・各職場における市民参加推進のマネジメント体制の強化

取組3：区役所・支所の総合調整機能の強化

取組2：職員の市民参加推進に対する意識の向上と能力開発の計画的な実施

取組4：市民参加推進計画の進捗状況や課題の公表